

『わがババ in my way』

インマイウェイ

ひおか かがり
緋岡 篝

2022年度

山口県高等学校演劇大会最優秀賞受賞
中国地区高等学校演劇発表会優秀賞受賞（米子市教育委員会教育長賞）

作品介绍

ばあちゃん最悪！ ばあちゃんなんていつとも私が一番嫌がることするん？ クリエ
イターとして生きたい孫佑と行く手に立ちはだかる祖母スちゃんのバトル。ばあちゃ
をうんこまんに奪われそうになって、やっと気づくはめちゃんの思い。

登場人物の数

8名（男子2名・女子6名）

上演許可を得るための連絡先

drama.club.at.hikari.city@gmail.com

じぶんで動画を御覧いただけます

https://www.youtube.com/watch?v=za4WATQi0yW&list=PLGgfsINF5mBfE02epnkj7BDJHKGba_Z0&index=1

中国大会提出脚本

この作品の趣旨を御理解いただいておりますら、
時代や上演団体に合わせて自由に改変いただいてもかまいません。



いん まい うえい

『わがババ in my way』

緋岡 篝
ひおか かがり
(光高校演劇部筆名)

若林 佑 たすく ぴっかり高校二年女子。

馬場 恵子 ばばけいこ 佑の祖母。

海野 佑樹 うんの 浅田中学二年男子。

若林 恵 めくむ 佑の妹。浅田中学二年女子。佑樹のクラスメイト。

若林 佑子 佑の母。室井中学校教員。吹奏楽部顧問。

若林 浩一 佑の父。ぴっかり市役所職員。

馬場 扶美 佑の伯母。独身。専門商社勤務。

瀬戸 れのん 佑樹と恵のクラス担任。

* 佑、恵子の台詞を中心に山口東部方言を使用。

#1 佑的尖叫

佑、突然呼び止められる。

佑 え？ なにそれ？ ばあちゃん最悪！ ばあちゃんなんでいっつも私が一番嫌がることするん？

#2 王子遭遇

四月末、昼。団地の小さな公園。恵子、安全ベストを着用したまま草取りをしている。傍らには、農業用一輪車。側に古びた公衆トイレ。その横には木、ベンチ、奥に畑。

恵子 佑が言うんよ。「ばあちゃん最悪！ すぐバウンドとる。」「いや、あんたもええ加減私に似て負けず嫌いやけえね。」「ばあちゃんほんとにうざい。もうイライラするけえ近寄らんで。目つきも息遣いも全部うざい。存在がハラハラ。」って。(目の前の鳩に語っている様子) あとね、佑は、あんたらのことも大嫌いなんで。ほら、それそれ。(鳩の真似をして) その、ポ、ポーツ、カクってなるのが怖いんで。(急に飛び立った鳩に驚いて、飛び去った鳩に向かって) ほら、考えなしに人についてっちゃいけんよ。(溜息とともに) 嫌われてもね、そう簡単には、直せんよね。私もそう。ずっとそうやって生きてきたんやけえ。嫌われ仲間やね。

少年が小走りで公園を横切っていく。恵子、少年を見つけ、手をふる。

恵子 やっほー。

少年退場。

恵子 (時計を見る) 十二時四十五分。ぴったりやねえ。(走りだった少年に向かって)「腹時計ですか?」あ、これ、言うちゃいけんやつじゃ。人の体の中にはなんも言うなって佑が言うけえ。本当、ハングリー精神のない時代やけえね。(ロッキーのテーマを歌いながらシャドーボクシングを始める)

少年、何かを探しながら小走りで戻ってくる。

恵子、少年に気づかずシャドーボクシングを続け、少年を殴りそうになる。

少年 うわあああ。

恵子 ごめん!

少年 (慌ててお尻を押さえ) うっ。

恵子 ごめんっちゃ。どうしたん? どうしたんかね。

少年退場。

恵子 (時計を見る。走り去った少年に向かって) 今日はいつもとより戻るの早いじゃあ。

少年、再び俯き加減で戻ってくる。

恵子 うわっ戻ってきた。なあに、その顔。毎日会っちよるのに悲しいじゃあ。

少年、お尻を押さえてもじもじしながら恵子の周りを探し始める。

恵子 虫!

少年 うわあああ。うっ。

恵子 虫じゃないよ、無視せんで。どうしたん? 下ばかり見て。なんか探しよるん? あ、四葉のクローバーかね? 四葉のクローバーやったらね、この辺がよう見つかるんよ。トイレの側やけ運がつくってね。

少年 うっ。

でもよ、幸せ探しもええけど、下ばかり向いとったら運氣が落ちるやろ。英語でも言うらしい。チンアップって! 佑が言いよった。ちょっとこれは恥ずかしいけどね。で、どうしたん?

(不鮮明に) ……か、か、か、い。

かい? どこが痒いん? 掻いちゃげよ。

少年 えっ。うっ…

恵子 お尻かね? (少年のお尻を掻こうとする)
(焦って) 鍵がなくて!

恵子 鍵？ どの鍵？

少年 いえ。

恵子 遠慮せんで言うてみんさい。

少年 いくえ！

恵子 じゃけえ、遠慮せんなっちゃ。

少年 家の！

恵子 いえの？ ああ、家か。あたしや遠慮していえいえって言うてるんかと思つたよ。

少年 お腹……。うっ、トイレ……。

恵子 トイレやったら、ほら、そこ、行きんさい。

少年 公園のダメ。

恵子 公園のがいけんかね。

少年 汚いトイレダメ……うっ。

恵子 汚くないいいね。なめてもええくらいに、私が綺麗にしちやげちよるよ。

少年 家の鍵が。

恵子 家の鍵は探しちよっちゃげるけえ。もう絶対トイレ行つた方がええやろ。紙もあるよ。神様もおるよ。もう、男のくせにはつきりせんね。出すんか漏らすんか、はつきりしいよ。

少年 出します。

少年 少年、トイレに駆け込む。

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

少年、

#3 沈菜爆発

夕方。若林家のダイニングキッチン。佑と恵が懸命に掃除をしている。佑は窓ガラスを、恵はクイックルワイパーで天井を拭いている。

佑 あのかそばばあ、デリカシーもくそもないわ！

恵 お姉ちゃんがそんなこと言うから、おばあちゃんのキムチが爆発したんだよ。

佑 くそばあのか呪いか（幽霊を真似てマスクに纏わりつく）

恵 きも！ やめてよ！

母、仕事用の大きなバッグを肩に、疲れて登場。

母（部屋の様子を見た途端）うわ。血！？ 真っ赤っかじゃない。……お母さん。

母（ホラー映画の主人公になったつもりで）見たな。うあああつ！

母 うあああつ！ 佑！ なにやってんの。また姉妹喧嘩？

母 全部ばあちゃんのせい。

母 何があつたの？

お姉ちゃんと、おばあちゃ……

恵！

キムチが爆発したの。

そう、くそばあめ怨念。

キムチ？ うっわ。(うんざりして天井を見上げる)

(母の視線に気づき) 下手くそ、貸して。(恵からクイックルワイパーを奪い取る)

恵、新聞紙とバケツと何枚か雑巾持ってきて。分かった。

恵、退場。

母 佑、喧嘩したからってキムチばら撒かないで。

だから、勝手に爆発しました。

キムチが勝手に爆発？ そんなことあるわけないでしょ。

佑 母さん、知らないの？ 発酵食品は爆発することがあるんですよ、先生。あ、先生は音楽の先生でしたね？

恵、新聞、バケツ、雑巾を持って再登場。

じゃあなんで冷蔵庫に入れとかないのよ。

それも全部ばあちゃんのせい。

お姉ちゃんのせいでもあるけどね。

父、登場。

たった今ただいま。おっ、この臭い。晩御飯は、もつ鍋か？

おかえり。

オレンジ色の天井、芸術的だなあ。

芸術？

お父さん。

芸術は爆発だ、ってな。

(天井の汚れを見直して) 岡本太郎か、悪くない。

(雑巾を突き出して) 手伝って。

手伝うよ。(楽しそうに) おおこんなどころにも。(自作の即興歌で) ♪な〜りがあつたかな お父さんは聞かないよっ お父さんは聞かないよっ♪

母のスマホが鳴る。

ばあちゃんなら私居ないから。

(佑に) 伯母ちゃん。(電話に応答して) なに。

なんでそんな喧嘩腰なのよ。

今立て込んでんの。後でいい？

今じゃないと無理。十五分もしたらコートジボワールから電話がかかってくるの。

母 コートジボワールって。さすがキャリアウーマン！

父 ここに痔もある。

父 お父さん汚い。手洗って。

母 ばいばい菌します。

母 何の用なの？

母 最近母さんと会った？

母 (ハンズフリーにして掃除を続ける) 部活が忙しくて無理。スプリングコンサート

母 直前で、毎日寝に帰ってるようなもんなの。

母 部活？ 教師はもう部活なんてやらなくて良いってニュースで言ってたわよ。

母 そんな簡単な話じゃないの。で、何？

母 筍が届かないの。

母 ああ、筍が入った大鍋、見てないわ。

母 筍なんか要らない。

母 まあ好きじゃないからいいんだけど。

母 いいならなんで？

母 それが何年か前に筍が届いて困って職場で話したとき、もの好きの部長がもらっ

てくれて、それから毎年楽しみにしてくれてるみたいなの。「今年は届かないの？」

母 って言われちゃってさ。

母 お姉ちゃんってほんとそういうところあるよね。

母 何よ。

母 結局面倒臭いことは人に押しつけるでしょ？

母 うわあ。

母 私があんたに何を押し付けたって言うの？

母 気づいてないの？

母 何。

母 まあ今更言っても仕方ないか。

母 それ言うちやいけんやつじゃ。

母 何よ、嫌な言い方するわね。

母 都会でひとり、自由に生きてる人には分かんないよ。

母 (語気を荒げて) 今も職場なの。(慌てて声をひそめて) 全然自由じゃないから。

母 それが自由ってこと。

母 私は自由に生きたい。

母 なんで絡んでくるのよ。

母 たまには帰ってきてよ。このお正月も帰って来なかったじゃない。

母 人込みは苦手なの。

母 都会に住んでる人の言葉？

母 民族大移動に巻き込まれたくないから。

母 もう勝手なんだから。

母 分かりました。今年はお盆休みを早めに取って帰るから。

母 おばちゃん帰ってくるの？

母 よっしゃ！

母 たーちゃん、恵ちゃん、帰るよ。

佑・恵 いえーい！

佑と恵、ハイタッチをする。

母 あ。そういえば母さん、事故に遭ったのよ。
伯母 大丈夫なの？

佑 いい歳こいてやってるからだよ。

母 まあかすり傷だったんだけど。ほら、母さんボランテアですずっと立階してたじゃない？ この前小学生が横断中に車が飛び込んで来てさ。

伯母 大丈夫だった？

母 小学生も母さんも軽い打撲で済んだんだけど、立階中に事故が起きたら責任とれんのかって責められてさ。

伯母 それっておかしくない？ 悪いのは車でしょ。

母 なんだって訴えてくるのよ。もうなにをやっても仇になる社会でうんざりするわ。ボランテアでやってるのに責められるとか納得できないわ。

母 そういう世の中なの。私も教師やってるからさ、余計なことに巻き込まれたくないじゃない？ だから立階はやめてって言うてるんだけどね。

佑 大きなお世話全部辞めればいいのに。

伯母 やめたの？ あの母さんが？ あんたの言うことなんて絶対聞かないでしょ。

佑 どうせ誰の言うことも聞かないよ。

母 なんか、他の楽しみ見つけてくんないかな。

伯母 私が言えることじゃないけど、同居するとか？

佑 ちょっと待ってよおばちゃん。

伯母 ごめん、ごめん。家庭内紛争のもとを投げ込んだじゃった？

佑 冗談でも言わないで。

伯母 (笑いながら)ごめん。

母 生活のリズムが違うしさ、好きにやりたいたいんだって。

伯母 母さん何だって自分流で生きたい人だからね。

佑 そう、スーパーエゴイスト！

母 ……で？ 母さんに筒送ってほしいって言えばいいの？

佑 やめてよ、二次災害が起きてこっちまで筒祭りになるじゃん！

伯母 ごめん、たーちゃん。

恵 大丈夫だよ、伯母ちゃん。お姉ちゃん今さっきおばあちゃんとバトルして機嫌悪い

伯母 だけから。

佑 余計なこと言うな。

佑、クイックルワイパーで恵の頭をこづき、退場。

伯母 ちょっと待って、めぐちゃん。バトル？ おばあちゃん、そっちに来てたの？

恵 うん。お姉ちゃんが脚本書きながら「私、大学行くの辞めて劇団入ろうかな。」と

か言い出して、そしたらおばあちゃんブンチギして「人生舐めんな。」って悪口のマ

シンガンぶっ放したの。「このくそブス、丸顔、一重、細目のだんご鼻の二重顎の、

やる気スイッチ切れたわがまま娘。」って。

恵父

それ、ほんとにおばあちゃんが言ったのか。
これは、私のイメージ再現ドラマです。まあそんな感じでお姉ちゃんのコンプレックスを深く抉るようなことを言ったの。そしたらお姉ちゃんブチギレて、おばあちゃんの首根っこ掴んで追い出して「もう二度と来んな。大っ嫌い。老害の粗大ごみ、狂った目覚まし時計、お節介の塊、くそババア、出てけカス、とっとと死ね。」って。

恵父

死ね!?

これはあくまで、私のイメージ再現ドラマです。まあとにかくそんな感じの、老人を労る気ゼロの発言をしたわけ。そしたらしばらくして、おばあちゃんの置いてったキムチが、おばあちゃんの怨念かのようにバーンって爆発した。もう家中キムチまみれ。

恵父

ほんとキムチ悪かったな。
でもその掃除も今終わったとこ。

佑、掃除道具を片付けて再登場。

伯母

おばあちゃんが元気なのが分かって良かったわ。たーちゃん、おばあちゃんとのバトルに気落ちせずに演劇づくり頑張ってるね。バイバイ。

電話が切れる。佑、気づかず話す。

母佑

全然気にしていないから……あれ？

佑、大学行かないってどういうこと？

佑、恵を小突く。

私、ほんとのことしか言っていないし。

(茶化して)第二ラウンド行くか？

はあ？

お姉ちゃん劇団の養成所入りしたいんだって。

恵!

(笑って)いくら演劇が好きだからって、あなたに女優は無理でしょ。

おばあちゃんも似たようなこと言ってたよ。そんな十人並みの顔じゃ無理って。

うるさい。

お父さんはそうは思わないぞ。

本当？

市民ホール配属だったときな、プロの劇団も公演に来てたんだけど、

うんうん。

綺麗じゃない役者さんもいっぱいいたからな。だから佑もそこそこ行けると思うぞ。

ないわあ。それ一番言っちゃいけないやつ。

お父さんは応援してるんだぞ。

もういい。(立ち上がって出て行く)とすする(

佑。座りなさい。

佑　　なんでみんなして邪魔するん。私の人生じゃん。

#4 最強双打

#2の続き。少年がトイレに入っている間、恵子、熊手で草をかき集めながら、歌を歌い続ける。

恵子　♪これくらいの大鍋にお肉と玉ねぎちよいと炒め、人参どん、じゃが芋どん、椎茸どん、蒟蒻どん、穴の空いた蓮根どん、カレーのルーをチヨップチヨップチヨップ、混ぜ混ぜ混ぜ混ぜ、召しあがれ♪。

少年、トイレから出てくる。ハンカチを出し広げると鍵が落ちる。恵子が振り向くと同時に思わず鍵を後ろに隠す。

恵子　おかえり。急にカレー食べたくなったんよ。そういうときあるよね。

少年　……。

恵子　いやいやいや、あんたがあれしたからカレー言う訳やないんよ。すみません。

謝ることはない。出るもん所構わずやけえ。

少年　ポ…ケットのハン…カチ…

恵子　おお、ハンカチ王子！

少年　ハン…カチから鍵が……。

恵子　探さんで良かったやん。

少年　あり……とう……ざいます。

恵子　ええんよ、ええんよ。人という字はねこんなやろ？ 支え合うから立てるんよ。

少年、熊手を取って渡す。

少年　トイレ、…レイ、でした。では。(礼をして帰ろうとする)

恵子　(しみじみと)トイレには神様がおるけえね。あ、また怒られる、佑に。

少年　(自分が何かをしてかしたかと思ひ)え、お…こられる？ すみません。

恵子　佑って孫娘がね、「迷信言うな！ なんだよ、トイレの神様って。」って言うんよ。

私は、あっちの神様に祈り、こっちの仏様に祈りって、そうやって生きてきたのによ。でも「今は、そういうことは言うちゃあいけん」って。へでもね、トイレの神様だけは、絶対におるんよ。私や、こんな小さい頃からトイレ掃除は完璧にしてきたけえね。これ見てみんさい！ (顔を突き出す)

少年　(首をかしげる)？

恵子　べっぴんさんやろ？

少年　(恵子が近寄ってきたので驚き)うあああ。

恵子　(佑樹の顔をのぞき込んで)おおっ、あんたはぱっちり二重やね。佑が羨ましがらわ。佑は私によう似ちよるんよ、丸顔の一重。(唇の前に人差し指を立て)シー。

言ったら怒るけどね。下の恵が二重やけえ、余計いけんらしい。佑は私に似て負けず嫌いじゃけえ。一本より二本の方がええらしい。多い方がええらしい。でも一重

少年 も悪うないやろう？ で、パッチリ二重のハンカチ王子くんの名前は？
少年 うんのゆう…きです。
恵子 おお、勇氣百倍の勇氣か。

少年、恵子から熊手を奪い取って、地面に佑と書く。

恵子 おお、なんね。「イ」？ 人偏に右、佑じゃん。

少年、木を指さす。

少年 じゅも…くの樹。

恵子 ン？ 樹木の樹？ 佑に樹木の樹で佑樹？ ほんとにハンカチ王子と一緒に、ええ名前。

少年 (頭だけ下げる)

少年、熊手を返す。

恵子 うちの孫もね、この佑一文字で(熊手で佑と書かれた文字を囲む。少年は足下に熊手が来たとき熊手の上を跳ぶ) たすく言うんよ。ええ名前じゃろ？ おっ、跳んだね、やるやん。上の子が佑、下の子が恵。人助けできる人になって欲しいって私がつけたの。でしゃばりばあやけね。でもね、男みたいで気に入らんて。ワンダーフリーの時代なのにな。

少年 ジェンダーフリー？
恵子 それそれ。あ、また孫自慢してしもうた。

少年 自慢？

恵子 好きなものはい話したくなるけえね。

少年 はい。(礼をし、帰ろうとする)

少年 でも最近ね、「ばあちゃんと話したくない。もう来んで。あたしの夢に口出しせんで」「なにを？」(佑とのやり取りを思い出しムツとする。)…あつ(少年の反応に気づき)ごめんごめん、私の夢はね、ひ孫を抱くこと、その子にも名前つけたいんよね。ま、わがババじゃけどね。

少年 (苦笑いをし、帰ろうとする)

少年 ハンカチ王子くんの夢は？ 内緒にするけえ言うてみ。

少年 …ユーチューバー。

少年 は？ それ仕事か？ 楽しんどるだけじゃ食べていけんやろ。

少年 …(いじける)

少年 あ、これ言うちやいけんやつやった。佑もこの前これで爆発したんやった。いや、でも、そんとき佑は、「ツクリエーターという仕事か、エアに負けん仕事や」って言いよったけど。それも、ツクリエーターの一つ？

少年 はい。ぼ…は…ゲ、ゲームのじっ…きよう者になりたい。

少年 ゲームの実況者？ しゃべるんやろ？ 大丈夫か？ それ、あんたに一番向いてない仕事じゃない？。

少年 …すみません。

恵子 は？ 謝るの？ 謝って諦めるんかね。人に貶されてすぐ諦めるようじゃ、ほんとの夢じゃない！ 私の壁を越えていきんさい。そのために私はここにおるんよ。

少年 …は、はい。

恵子 なにしよぼくれとるんかね。「ゆうき」なんやる？ よし、じゃあ私がさっきのあなたを再現しちやげるけえ実況してみんさい。今の自分と夢との距離がどんくらい離れちよるか知っちよかんといいけん。

恵子、少年がカギを探し回っている様子を再現する。

少年 えっと。おばあさん、歩いた。

恵子わざとらしく転ぶ。

少年 おばあさん、こ、こ、転んだ。

恵子 いや、私しや達磨じゃないっちゃ。っていうかあなたの再現しとるのにおばあさんが出てきてどうするんかね。おばあさんどこ？ どこ？ どこ？ おらんやん。

少年、恵子を指さす。

恵子 (少年の指を叩いて) 私はべっぴんKちゃんやん。じゃあ次はあなたが動きんさい。私を実況しちやげるけえ。

少年、戸惑いながら恵子の実況に合わせて動く。

恵子 ほら動かんと実況できんやろ。佑樹、鍵を探しまわる。トイレに行かなきゃ。でも、家の鍵がない。どうしよう。焦る佑樹。ほら、回れ回れ回れ。そこに現れたトイレの神様Kちゃん。はいこの続き作って。

少年 …こ、公園のトイレに入る。

少年、トイレに入る。

恵子 トイレに入ってすっきりする。

少年 手を洗う。

恵子 ほんでほんで？

少年、トイレから出てくる。

少年 ポ、ケット、か、らハン、カチを出す。

恵子 じゃじゃ〜ん!

少年 そしたら、か、ぎがほろっと。

恵子 そこに再び現れたトイレの女神べっぴんKちゃん。あなたが落としたのは金の鍵ですか？ それとも銀の鍵ですか？

少年 普通の、鍵です。
恵子 佑樹君、あなたは正直者でお年寄りとも話してくれるとても良い子です。金の鍵をあげましょう。

少年、鍵を受け取るうとする。

恵子 (鍵を渡しかけて取り上げるジェスチャーをして) とはならんけどね。できたやん。
少年 で…きた？

恵子 うん。あと私のことはこれからはKちゃんって呼びや。

少年 か、か、力行、に…がて、け、け、けいちゃんはむず…しい。

恵子 それやったら私が魔法かけちゃげよ。行くよお。(背中を勢いよく叩く) ほい！

少年 (叩かれた勢いのまま) けいちゃん！

少年、自分が言ったことに驚く。

少年 言えた。

恵子 言えるやん。やらす嫌いはいけんよ。やる前から諦めんこと。

少年 (自分で力行の瞬間体を叩いて) で、きた。

恵子 グー！ できたやん。じゃあ私ら二人でユーザーやるか。ダブルスやな。ほらこれ乗って！(熊手にまたがるように促す)

恵子熊手にまたがり、少年が乗ったことを確認し、公園内を自由に飛び回っているかのように動き回る。

恵子 これからはAIとの勝負になるみたいやけえね、人間にしかできんツクリエイティブなことをやらんといけんらしいよ。な。

少年 たぶん、それ…リエイティブ。

恵子 うんツクリエイティブな。これからはトイレ掃除もAIがやるようになるらしい。

私はね、野菜づくりとかものづくりは人間にしかできんツクリエイティブやと思っ

ちよったけど。佑が言うんよ。そういうのも全部AIがやるようになるんて。その

うち人間も全部AIで勝手に育つようになるんかねえ？ 怖いねえ。「そんなこと

はばあちゃん心配することやないけえ、ほっちよきいよ」って佑が言うんよ。悔

しいよねえ。

少年 ……すごい。

恵子 Kちゃんは諦めんよ。

少年 ……が、学校に戻らないと。

恵子 そりやそれ。佑樹くんはええ子やねえ、

少年 え。

少年 あ、家の鍵持ちちよつてもいつでも来てええよ。トイレはピカピカにしとくから。

少年 ……。

少年 あとあたしの家はあそこの三つ目のアパートの一階の一番こつち。なんかあったら

いつでも寄りんさい。

少年 ありがとうKちゃん。(自分がすらっと言えたことに驚いて) 言えた。

恵子 うん。言えたやん。グー！ じゃあ、またね。
少年 うん。

少年、嬉しくなって走り出す。途中で振り返り、満面の笑顔で手を振る。

恵子 (手を振り返して) おっ佑樹百倍じゃー！

少年 けっ、Kちゃん。

恵子 うん！ またねー！

少年 うん。

#5 勇者誕生

五月下旬、昼。公園。恵子、「トイレの神様」を歌いながらトイレ掃除を楽しんでいる。
少年、走ってくる。恵子、立哨の旗を振ってトイレに誘導する。

少年 Kちゃん。

恵子 はいはい、トイレピッカピカにしちよるよ。はい、いってらっしゃい！

少年、トイレに入る。

恵子 いや、5月にこの暑さはやれんね。(バケツに水を汲んで、畑に水をやる)異常気象、異常気象って言うけど、ずっと異常やけえね。

少年、トイレから出てくる。恵子、いたずらっ子のように少年に水をかける。

うあああ。もう、Kちゃん。

えへへ。

Kちゃん！ か、か、カレーっ、くった。

あんた、このタイミングでカレーって。うんこの味ってか？

自分だって、この前。

(恵子、笑っ)で、自分で作ったん。

うん。……Kちゃんの歌みたいな、…カレー。

おおっ、グー！ カレーやな。レンコンも入れたか？

いや、な、かった、…ら。大、根を。

そりゃ、美味しかったやろ。

面白かった。

お母さん喜んだ？

多分。

多分？

遅い、から。

そっか忙しいんか。いけんね、年寄りはこのなに暇しちよるいうのに。

暇？

いやあ、暇じゃあないな。だって私は、朝一で畑の草とって、緑のおばちゃんやっ

て、公園のトイレ掃除して、またまた畑の草取りして、夕飯作って、緑のおばちゃんやって、その後またまた畑の草取るからねえ。

少年 草との勝負？

少年 恵子 そうやねえ。なかなか勝てんなあ。佑樹くんはなんと勝負しちよるん？

少年 恵子 いや、何も。

少年 恵子 いやいや勝負しちよるよ。毎日勇者の顔しちよる。

少年 恵子 に、げてる。

少年 恵子 まあ一つの戦法じゃけえね。逃げるのも大事！ すっ、すっ、って避けるのもね。

少年 恵子 弱虫だから。

少年 恵子 ……うん？

少年 恵子 学校のトイレ、行、けないし。

少年 恵子 あ、あれか。みんながトイレ掃除サボっちゃよるんやろ。「おーいその中坊、真面目にトイレ掃除やれえ」って今度うちの恵にも言うちよこ。

少年 恵子 いやそうじゃなくて。

少年 恵子 汚いから嫌なんじゃないん。

少年 恵子 うん、…マンって。

少年 恵子 え？ うん？

少年 恵子 うん、こマンって、言われる…。

少年 恵子 うんこマン？ 生きとったら、誰でもするのに？ もうそれやったらみんなうんこマンじゃ。

少年 恵子 それはそうだけど。

少年 恵子 誰かそのうんこマンっていう奴は。Kちゃんがやつつけに行っちゃる。

少年 恵子 やめて！ それは絶対にやめてください！

少年 恵子 おおっ、ええ声出るやん。

少年 恵子 誰と、かじゃなくて…。ただなんか、嫌っていう、か。

少年 恵子 なんとなく、分かる気がする。

少年 恵子 分、かる？

少年 恵子 男子はいろいろと大変やね。もうあれやな、男子も女子も全部個室にして、こんなでっかい換気扇ぶんぶん回しちよってくれたら伸び伸びとできるのにねえ。

少年、笑い出す。

少年 恵子 おおっ、笑顔ええねえ。ハンカチ王子じゃなくて、はにかみ王子に進化やな。

少年 恵子 進、化って、ゲームみたい。

少年 恵子 うん、勇氣百倍！

少年 恵子 百倍。

少年 恵子 あ、そうや、市役所に言うてっちゃろうか？ 学校の男子トイレを全部個室にしるって。

少年 恵子 ははそんなの…。

少年 恵子 いけん。今、絶対できんと思つたやろ？ それがいけんのんよ。自分たちの住む街

少年 恵子 は自分たちで変えていかんと。

少年 恵子 僕が変わればいい…。

少年 恵子 そうかねえ？ 私はものすごくいいアイデアやと思うよ。他にも困っちゃよる人おる

んやないかね。

雨が降りだす。

少年 あ、雨。
恵子 ありゃ天気予報はずれたねえ。
少年 学校に戻らないと。
恵子 それやったら(手ぬぐいを首から外して)これ巻いて帰りんさい。ちょっとは防げれるやろ。(少年に手ぬぐいをかぶせる)タスクアイ手ぬぐい。十年後には、すごい価値が出るお宝やけえね。

少年の担任がやってくる。

担任 (少年に傘を傾けて)海野君?
少年 (担任に気づいて)うわああああ。
恵子 (一緒に驚いて)うわああああ。どうしたん?
少年 せ…先生。

恵子 (少年に)先生? じゃあなんでそんなに驚いたん? (担任に)こんにちは。こんにちは。私浅田中学校で海野佑樹くんの担任をしています瀬戸れのです。おお瀬戸レモン、爽やかな名前やな。
担任 レモンじゃなくて(突然「Let it be」のさびを歌い出して)のれのです。知っちゃうよ、ビートルズのジョン・レノンやろ。お父さんがファンやったん? はい。

好きなものを名前にするのもええね。

担任 (恵子を示し)あの、海野くんの……?

のお?

のお?

のお?

海野くんのおばあちゃんですらっしやいますか?

いやいや応援団です。勇気百倍!ってね。

応援団?

あそうや、先生は学校の男子トイレも全部個室になったらええのになって思わん? あの、海野くんは毎日学校抜け出して、お宅様と会っているんでしょうか? 待ち合わせはしとらん。たまたまじゃけ。

たまたま?

うんたまたま。

あの、お名前をお伺いしてもよろしいですか。

馬場恵子って言います。

馬場さん……もしかしてこの前の事故の?

それ私になんか悪いことしたみたいじゃね。

(焦って)いやそういうわけじゃなくて。もうお怪我は大丈夫なんですか? もう一か月前のことですからねえ。

(緑色のベストを見て)まだ立哨されてるんですか?

恵子

やっちゃんあいいけんって言うの？

担任

(焦って) そういうわけじゃありません。

恵子

もうなんでもかんでも責任問題言うてみんな手も足も出んようになる。でも困るのは誰？ 私はこれが一番ええ方法やと思うことをするんよ。

担任

はい。

恵子

担任の先生は、佑樹君を見る時間は無かったんじやろ？

担任

気づくのが遅くなってすみません。

恵子

いや責めとるわけじゃないんよ。一人でできることには限りがあるけえ、みんなで見えていきやあええ。こんな真面目な子が学校を抜け出すにはそれなりの事情があるんよ。

担任

その事情、詳しく聞かせてください。

恵子

そりやあ佑樹くんが言えたら言うじやろ。

担任

じゃあ学校で聞くことにします。うわっ。(鳩に怯える)

恵子

鳥は嫌いななの？

担任

ええ、まあ。

恵子

まあ誰にでも好き嫌いはあるけえね。(鳩に) 嫌われたね。ほらこっちこっち。(ポケットから餌を取り出し、撒く)

担任

餌付けされてるんですか？

恵子

悪いみたいやね。

担任

糞害とか、あ、生態系も乱れますし。

恵子

ふっん。糞害だけに。(吹き出す)

担任

苦情は出てませんか？

恵子

鳩は昔から人間と暮らしてきたんじやけえ。公園に鳩がおれば、寂しくならんてええ。(鳩に) 担任の先生は若くて綺麗で真面目じやね。

担任

じゃあ、連れて帰ります。お世話になりました。(少年を連れて去ろうとする)

恵子

佑樹君、トイレいつでもきれいにしとくからね。

担任

もう海野くんは来ないと思います。

恵子

そうですか。なんでも知ってんやね。

担任

いや、失礼します。

少年、何かを言おうとしているが、担任に連れられて、何も言えないで去る。

恵子

お、雨やんどるやん。雨やんどるよ！ (二人の去った方向に向かって) あんたは晴れ女か！ 学校のトイレ行けるようになるってええねえ。佑樹、百倍！ (ため息)

担任

いつか学校にも行ってみようかね。

#6 佑的使命

六月初旬、夜。若林家のダイニング。父、母、恵、カレーを食べている。

恵

お姉ちゃん遅いね。

母

(時計を見上げて) あれもう9時？

父

(自分の食べた食器をキッチンに下げながら) 部活かな。

佑、電話をしながら帰ってくる。

佑 (スマホに向かって) だから違うんだって。

父 おつかレー。

母 何時まで部活してんの。

佑 (スマホの相手に) 男子にドレスを着せるのは笑いを取るためじゃないの。

母 ちょっと佑。

父 (ラップ調で) 佑も部活、お母さんも部活、恵と父さんはカレーをガツガツ。

佑 (スマホの相手に) そこで笑い取ったらこの作品おしまいじゃん。

父、洗い物をしながら受けてくれない佑にしゅんとする。

佑 (スマホの相手に) じゃあ、前半もうちょっと面白くするから。2時間だけちょうだい。(スマホを切って) 自分で脚本作ってみろ。うわあああああ！

佑、テーブルのカレー皿を横に除け、PCを開いて脚本制作に取り掛かる。

父 恵 (佑に) 食べないの？

佑 ばあちゃんの具デカカレー食べ応えあったぞお。

佑、無視する。

母 恵 (母に) 食べないのかな。

佑。(突然、ミュージカルっぽい口調で) ♪後で腹減って、変なもの食べるでしょ？ みんなと一緒に食べなさい。

佑 いらない！ ♪ばあちゃんのカレー、食べるの疲れる。人参、ジャガイモでか過ぎる。しいたけ、こんにゃく、レンコン、ゴボウ、入れたい放題。ただの煮物じゃない。

佑 ♪ひっど、身体に良いからおばあちゃん入れてくれてんだよ。

母 恵 いい子ぶりっ子。

母 恵 いい子ぶりっ子じゃないし。

母 恵 いい子よね♪

母 恵 ♪インド風煮物も悪くはないぞ

母 恵 黙って。うるさくて脚本できない。

母 恵 え？ ……恵、この前の対戦の続きするか。

母 恵 やろう！ お父さん、またボロ負けだよ。(食器を流しに持っていく)

母 恵 ゲームばっかしてないで、勉強もしなさい。

母 恵 お母さんが帰ってくる前にしました。お母さんこれお願いします。

母 恵 自分の食器は自分で洗ってください。

母 恵 はーい。お父さん先に、準備しといて。(食器を洗い始める)

母 恵 はーい。

父、退場。

ねえ佑。

ん？

あんたほんとに劇団入るつもりなの？

養成所。

おーほっほっほ、女優になりたいんですよ。

だから違うって。クリエイターになりたいの。

おばあちゃんに顔貶されていじけちゃって。

おばあちゃん関係ない！

怖。

クリエイターって何作るの？

イベントを企画したいの。

どんなイベント？

ドラマでもパフォーマンスでもトータルでプロデュースしたいの。

呪文か！？ カタカナでごまかしてる！

黙っとけ！

恵、ふんとふくれて退場。

何かを企画するなら、お金もいっぱいいるよ。

大学に誘導してんの。

必要な力をつけるために大学に行くんだし、大卒ってだけで信頼度が変わるんだよ。

ほんとに？ 大学行って力つく？ 無難に生きたい人が行くところじゃない？ 私

はそんな普通じゃ嫌なの。自分の力で何かを創り出したいの。

じゃあ養成所じゃないんじゃない？

養成所に入って普通じゃない人と生きる。(二、五次元っぽく) 普通の人生への退

路を断つ。

「背水の陣か？ はあつ、はつ、はつ。愚か者め！ 逃げるのも戦法じゃあ！」つ

ておばあちゃんなら言うよ。

(突然怒りだして) おばあちゃん関係ない！

(ため息。佑の気分を変えさせようと、ラップ調で) ♪教えて頂戴、佑ちゃん な

んでなりたい、クリエイター？

人の心を動かしたい。♪演劇やってて思ったの。人は動くよ、感動で！ ♪母さん

なんでやってるの？ 吹奏楽の先生を？

♪仕事だからね、生きるため。佑、恵を生かすため。

それだけじゃないでしょ。音楽って、人の心を動かすためのものでしょ？ 演奏す

る人たちは一つになれたとき感動するし、それを聞いている人にも響く。

まあ、そりゃ、そうね。

私、演劇やってて思ったの。人を動かすには感動しかないって。だから、そんなド

ラマやイベントを創れる何者かになりたいの。

でも、その何者かになれなかった時どうするの。

挑戦する前からできなかった時のことか考えたくないし。

母 万が一、その何者かになれなかった時のために、資格とか学歴とか取っというて欲しいの。

母 それはタイプが悪いの。

母 (生徒に成りきって) 先生、タイプってなんですか？

母 (どこかで見たことがある外国の誰かのプレゼンっぽく) タイムパフォーマンス。時間の無駄をしないってことだよ。「もし今日が人生最後の日だとしたら、今やろうとしていることは、本当に自分のやりたいことか？」って自分に問いながら生きていくのさ。今の僕には大学受験のための勉強時間も、大学で単位を取るための時間も全部無駄。

母 (笑い出す) そのせつかちなところも、他人の意見を全く受けつけないところも、おばあちゃんそっくり。

母 (突然切れる) ばあちゃんと一緒にせんでよ。

母 (笑って) おばあちゃんは、大学も行ってないし、資格もない。結婚にも失敗して、二人の娘抱えてものすごく苦労してる。お先真っ暗な状況がどれほど真っ暗か聞いてみなさいよ。それが耐えられるんなら……。

母 結局、ばあちゃん家に行かせたいだけじゃん。

母 とにかくおばあちゃんが手伝ってくれないとうち回らないし。

母 うわっ、家政婦扱い。

母 それに、佑とおばあちゃんが喧嘩したままがいいとは思えない。

母 喧嘩じゃない。価値観の相違。

母 佑、冷蔵庫の飲み物を取りに再登場。父も遅れて来る。

母 佑 お年寄りは大切に。

母 佑 うるさい。ばあちゃん大っ嫌い。

母 佑 父、おばあちゃんに会ってくれるのがお前のタスクだ。

母 佑、父を無視し、PCを片手に退場。

母 恵 お姉ちゃん美容整形のサイト見てたよ。二重になって女優目指す気だよ！

母 父・母 え！？

#7 女神昇天

母 翌朝の公園。恵子、トイレの歌を歌いながら草取りをしている。

母 恵子 佑樹君は元気にしちよるんかね？ はあだいぶになるね。あのうんこマンからは卒業できたんやろうか。あの担任の先生はうまいことやってくれちゃったんかね？ ふふっ。なんか嬉しいけど……ねえ。緑のおばちゃんの時分もうちょっと早うしたら佑樹くんの登校時間に間に合うんかねえ。

母 恵子、倒れる。

恵子 (笑いながら起き上がり) どうしたかね? (安全ベストを脱ぎながら) はあ、これがいけんかね。(立ち上がろうとするがうまく立てない) 今日はなんにするかねえ。またカレーって言うよねえ。暑いからねえ、はあ作れんかねえ。(トイレを見て) まだトイレ掃除終わっちゃうらんのに……。 (トイレにふらふらと歩きながら) もうちょっと待ってくれんと。

恵子、トイレに入った後倒れる。

#8 覆水不返

翌々日。夕暮れ。恵子のアパート。葬儀、火葬を終えた若林家の父、恵が古びた食卓にっいている。伯母、トイレから出てくる。佑、台所からシソジュースのピッチャーを持ち出してくる。

佑 (やたらにハイテンションで) ばあちゃんのシソジュース発見しました! シソで腸も快調! シソ鳥。さっすがばあちゃん最高の形見。要る人?

一同、手を挙げる。

佑 シソジュースフォー! フォウフォウ!

佑、台所に去る。

恵 (父に) お姉ちゃん、どうした?

父、頷く。

伯母 トイレに入ったら、帰ってきたって感じがするわ。

父 「親の意見と茄子の花は千に一つも仇は無い」。

伯母 「千に一つも仇はない」。それぞれ。

恵 格言だらけだもんね。

佑、様々な湯飲みを盆に載せて持ってくる。

伯母 死んでもまだ叱られてるみたい。

恵 トイレ掃除! っていつつも言ってたもんね。

佑 忙しいときに限って「トイレ掃除せえ。トイレの神様が見ちよるよ」って。

伯母 出た! トイレの神様。

佑 なんだよトイレの神様って。

父 この古さでのトイレのきれいさはさすがばあちゃんだな。

伯母 ほんとね。母さんのシソジュース懐かしい。

佑 私も久しぶり。

恵 (佑に) え?

伯母 公園の公衆トイレの裏、ほっとくとシソがすごいことになるのよね。

父 公園課にいたとき苦情の電話がよく入ってました。

伯母 大変ねえ市役所は。

父 お義母さんから。

伯母 うちの母さんから!?

父 おばあちゃんから!?

父 「公園課の役人は何しとる! 税金泥棒か!」って。行ったら、もうすっかりきれいになってて。

伯母 母さんらしい。

父 おばあちゃん自分でやるなら電話しなきゃいいのにな。

伯母 それがばあちゃん。

父 市役所的にはどうなの? やっぱ問題でしょ。公園で野菜作ったりってだよ。

伯母 じゃが芋とか人参とか、

父 西瓜もあったよね。

伯母 こんな小ちゃかったけど。

父 (恵の頭を叩いて) 農家じゃないから!

恵、自分の頭を撫でながら佑を見る。

伯母 鯉のぼり上げたり、七夕やったり。

父 やってた、やってた。

伯母 ライトアップもしてたよね。

父 あれヤバかったよね。ばあちゃん何だってやりたい放題だから絶対周りの人に悪口言われてたよ。私恥ずかしかったもん。

父 お父さんも職場でいろいろ言われたんだけどな。だろうね。

伯母 ごめんなさいね。

父 いえいえ。おばあちゃん野菜みんなに配ってたんだよ。自分のためじゃないんだ。

父 ライトアップも太陽光だったんだぞ。

父 嘘。

父 結局誰にも迷惑かけてないんだ。

佑、茫然とする。

父 おばあちゃん、すごい。

父 おばあちゃんらしいっていうか。お父さんも楽しんでた。

父 浩一さんが苦情を止めてくれたのね。

父 おばあちゃんはその公園の産みの母だから。

父 何それ。

父 産みの母? おばあちゃん何者?

伯母 伯母ちゃんたちが小ちゃかった頃、この団地の前は車がいっぱいいて何人も事故にあってたね。「危ないから、公園造れ」っておばあちゃんが市にかけ合ってたね。

佑 ばあちゃんか？
伯母 まあ、できたのは猫の額ほどの小さな公園だけど、そこでみんなが育った。
佑 ……クリエーターだ。

母、 畳んだ風呂敷を持って登場。

母 ただいま。
一同 おかえり。

父、 立ち上がり母に座るよう促す。

母 恵 お母さんもシソジュース飲む？
母 うん、お願い。

恵、 台所にシソジュースを取りに台所へ退場。

父 (母に) 駐在さん居た？
母 お巡りさんも泣いてた。悔しいって。

佑、 母の方を呆然と見る。恵、母のためのジュースを手に再登場。

母 「いつもよりパトロールが遅れた」って。悔しいのはこっちなんだけどね。
恵 (母にシソジュースを渡し、卓上の空いた湯飲みを盆に入れながら) おばあちゃんすごい。みんなに愛されてる。

父、 恵から盆を受け取り、台所へ退場。

父 そうだな。
伯母 本当ね。お葬式にもあんなに沢山人が来てくれて。そういえば、母さん死んだ日の朝も立哨してたんでしょ？ あんたはやめた方がいいって言ってたけど、感謝されてたじゃない。
母 ……そうね。

伯母 事故にあった子のお母さんも葬式で言ってたわよ。

母 なんて？

伯母 車が突っ込んで来たとき娘を突き飛ばしてくれたからかすり傷で済みましたって。

母 そうなんだ……。

恵 おばあちゃんのお節介って世界一だね。

伯母 ほんとね。

父、 スケッチブックでつくったアルバムを持って再登場。

父 おばあちゃん、虫が知らせたのかな。食器棚に手作りアルバムが置いてあったぞ。
母 ああ作ってたね、アルバム。

佑 カレー作りながら人生振り返ってたのかな？
伯母 (ため息) 遺品整理しなきゃね。
母 (遺品を見て) 母さんの思い出が詰まってるなんて、言ったらないね。
父 退去は六カ月以内ってことだから。あっちの部屋整理しとこうかな。
母 うん。

父、襖を開け隣室へ退場。

佑 (アルバムを見ながら) 「たーちゃん、めぐちゃん、ばあちゃんの取り合い。ばあちゃん、懐が広いから二人ともぎゅっと抱きしめてあげる。」ああ、あったあつた、懐かしい。二人ではあちゃん取り合って喧嘩したよね。
恵 いや覚えてないから。てか最近、お姉ちゃん私におばあちゃん押し付けてたじゃん。

沈黙。

伯母 おばあちゃん、たーちゃんも恵ちゃんも大好きだったんだね。(母に) あんたほんとに親孝行したよ。こんな可愛い子達産んでくれて。
(ぶりっ子のポーズをしながら) 可愛い子です。
恵 親孝行なら最後に警察のお世話にはならなかったでしょ？
伯母 それは仕方ないでしょ。お互い仕事だったんだから。幸せな人生だったんじゃない、母さん。
母 ……幸せな人生？ 最期に公園で独りぼっちで死んだのに。

佑、両手で自分の震える体を押さえようとする。

伯母 このアパートで死んで何日も見つからないってそれこそ一番の悲劇でしょ。
恵 大好きな公園で死んだんだからおばあちゃんも幸せだったと思うよ。
伯母 そうねえ。(アルバムの写真を指し) あ、これ入学式じゃない？
母 なんて会いに行かなかったかな。お姉ちゃんに電話もらなかった時。
伯母 それは言いつこなし。私も帰ってこなかったじゃない。
佑 ……私のせいだ…私のせいだ…
伯母 ……私、そこであーちゃんが責任を感じるの？ たーちゃん！
母 (佑の傍に寄り) 佑、……佑！
佑 私、お母さんに会いに行けって言われてたのに行かなかった。
母 ごめん……。
佑 ばあちゃんに会いたくなかったから……。

母、佑を椅子に座らせる。

佑 私のせいだ…私のせいだ……
母 佑、会いに行かなかったのはお母さんも同じ。(佑に寄り添って) 全部お母さんのせい。ごめんね。

佑 私があの時行ってたら、ばあちゃんは…。
伯母 たーちゃん、だからね、おばあちゃんは朝も立哨してたんだよ。会った人みんなおばあちゃんが体調が悪いつて気づかなかったの。

佑 私、大っ嫌いつて……。

伯母 言う言う。私も十代の頃は毎日のように言つてたもん。絶対負けたくなかつた。

佑 (泣きながら) ばあちゃんのカレー……私食べなかつた。

恵 お姉ちゃん食べたかつたんだ。

佑 もう食べれないのに食べなかつた。

母 大丈夫。佑の体の半分は、おばあちゃんのカレーでできてるから。今度一緒に作ってみよう。

佑 私が大嫌いつて言つたから死んじやつたんだ。

伯母 そんな訳ないでしょ。

佑 私のせいだ。

伯母 たーちゃんのせいじゃない。

佑 私があんなこと言つたから、公園で一人寂しく死んじやつたんだ。

父、襖越しに叫ぶ。

父 佑、それは傲慢だぞ。

父、隣室から着ぐるみを着て登場。

父 これを見る。「あなたも私もうんこマン」

恵 お父さん汚い!

父 おばあちゃんが作つてたんだぞ。

伯母 母さんが?

恵 うそ!

父 本当! おばあちゃんは何が作りたかつたんだらうな。

父 うんこマン?

父 (佑の肩を抱く) 佑、お前が知ってるのは、おばあちゃんの人生のほんの一部だ。

父 もちろん、おばあちゃんはお前たちのことが大好きだった。でもね、おばあちゃん

はお前たちの知らない時間も生きてたんだよ。

佑 やだ……。ばあちゃんに会いたい。

呼鈴が響く。父、玄関に退場。

恵 お父さん、行っちゃった。

少年 (玄関の方で 声のみ) なんでうんこマン?

父 (少年を連れて来ながら) いやあ、これには事情がありました。どうぞどうぞ。

父 (少年に) うんこマン!

父 (自分のことを言われたと思ひ、ポーズを決めて) そうだ、うんこマンだ。

父 ……じゃなくて、海野(うんの)くん。

伯母 お友達?

少年 なんて、わ、かばやしさん？
恵 だってここ私のおばあちゃん家だから。私のおばあちゃん死んだの。
少年 Kちゃん…？
恵 Kちゃん？ 私、めぐむって読むんだけど。
少年 おばあちゃん。亡くなったの？
伯母 Kちゃんって、母さんのことか。
少年 (涙声で)こ、こ、これ。け、Kちゃんはあ、げるって言った、けど。大切なもの、から。

少年、手ぬぐいを渡す。恵、畳まれた手ぬぐいを広げる。

恵 「ずっといきてね、たすく」
母 佑が幼稚園の敬老の日にあげたやつ…。

恵、佑に手渡す。

佑 え、ほんとだ。
伯母 物持ち良すぎるでしょ。
少年 タスクアイ手ぬぐい。価値、が出るから持ってなって。
佑 価値が出る？
恵 海野君、なんでおばあちゃんのこと知ってるの？
少年 Kちゃんが勇気をくれたんだ。

佑、少年に近寄り、突き飛ばす。

佑 なんであんたがこれ持ってんのよ？ ばあちゃんとどう関係なの？
父・母 佑！
少年 ……めんなさい。
佑 なんて謝るのよ！

少年飛び出していく(退場)。佑、少年の去った方向を見つめる。

恵 私、うんこマンが。
母 恵！
恵 うんこマン？ あの子がうんこマン？
母 海野くんがあんなに話したの初めて聞いた。海野佑樹って名前んだけど海野空気って呼ばれてるんだよ。
恵、その言い方やめなさい。
母 みんなが言ってるの。毎日、昼休み抜け出してたらしいけど、
恵 抜け出してた？
母 うん。瀬戸レモン全然、
恵。

瀬戸れのん先生全然気づかなかったって。学年主任の石岡先生に怒られてたもん。

母 毎日抜け出してたのに気付かなかったって？
伯母 母さんそれに絡んでたりして？
母 やめてよ。
母 それは違うと思う。だってうんこマン、
母 恵。

恵、ポケットからスマホを取り出す。

恵 海野君ゲームめっちゃ好きでユーチューブに自分の実況チャンネル持ってるくらいだもん。だから多分ゲームしに帰ってたんだと思う。
佑 でも、うんこマンは？

恵、少年の実況チャンネルを開く。

恵 え、海野くんのチャンネルに「Kちゃんの公園ゲーム実況」ってある。
伯母 Kちゃんって言ってたよね、あの子。

恵 これおばあちゃんをゲームにしたのかな？

母 それ見られるの？
佑 貸して。

佑、スマホを奪い取る。一同、スマホ画面を覗き込む。

佑 なに勝手にばあちゃんをゲームキャラにしてんだよ。ばあちゃんはリセットしたって……。

#9 K的公園

佑が見つめるゲーム画面。ゲーム音楽とともに少年が登場。

少年 給食、完食！ 佑樹、百倍！ おなかがぐるぐる踊り出す。やばい、やばい。どうしよ？ どうしよ？

3つの選択肢ウィンドウ上に3つのキャラクター登場。

① うんこマンに変身！ トイレに行く！（トイレのポーズ）

佑 うんこマン？

② 大脱走（走るポーズ）

③ 漏らす…（お尻に手をやり、その手を見る）

少年 大脱走するしかない！ 公園に到着！ 僕の秘密の友達、Kちゃん！

佑 秘密の友達って何。

恵子、出てくる。

恵子 はい。トイレの女神、べっぴんKちゃんです。

佑 ばあちゃん……!! ばあちゃんが女神なんて。

恵子 (ラップ調で) ようようようハンカチ王子佑樹君。出すんか漏らすか言ってみな! よう!

少年 もちろん、すっきり出しますよ。うっ。

恵子 おーけー。うおおおおお!

(モーゼのように、トイレの道を切り開く) ピッ

カピカにしちよるけえねー! (白雪姫の魔女のように) トイレよトイレ。世界で一番べっぴんなのはだあくれ。

キャラ もちろん、Kちゃんです!

佑 「私によう似ちよるんやないんですか? 丸顔に一重 世界一のべっぴんですか?

恵子 さあ、トイレステージをクリアした佑樹くん。次はいよいよ飛躍ステージ。私のバ―を越えられんと夢は叶えられんよ! まずは、「ババ―」!

佑 ばばあって。

恵子、熊手を振り回して少年にそれを越えさせようとする。少年越えられない。

少年 うわっ。

恵子 ふっ。まだまだやね。いくよ。はいっ。

恵子、キャラたちがリズムに合わせて棒を上下に振る。少年がその棒を飛び越える。

恵子 バ―バ―バ―バ―ばああのバ―。幸せ探しの苦勞(クロー)バ―。ばああのバ―越え

サバイバ―。絶対なるぞ、ユーチューバ―。

少年 やった! レベルアップ!

佑 ババ―のバ―超えサバイバ―?

恵子、カレーの歌を歌い出す。

佑 なんだったけこの歌。

恵子 飛躍ステージをクリアした佑樹くん。次は、いよいよ秘伝のグーカレーの由来を伝授しよう。佑が小さいときに私の誕生日にカレー作ってくれたんよ。

佑 私が?

恵子 こんなに大きいじゃが芋とそれから人参と椎茸と蓮根も入っとるカレー。よっしゃ蒟蒻もあるから蒟蒻も入れるかって、二人でちぎって鍋にぶちこんだら、そりゃ面白いカレーができたんよ。あれからうちはずっとこのカレー。大きなグー、愛情グー、タスクのグーカレー。

佑 何、それ?

恵子 佑樹くんも一度食べてみい。小さいことはなんも気にならないよ。周りには

勝手に言わせちよきやあええってね。そーれ、食べて……。

佑 ちよっと待ってよ。佑のグーカレー？ ばあちゃんのですよ？ 私が作ったの？ 私、なんにも覚えてない！

どこからかカレーの歌が聞こえてくる。

佑 ばあちゃん……！！ ごめん……！！

恵子 ……食べて、食べて。ぱく！

少年、カレーを食べる。

少年 勇気百倍！

恵子 (てぬぐいを広げて) カレーステージをクリアした佑樹くん、勇者の証「タスクアイ手ぬぐい」を与えよう。

佑と書かれたコスチュームを着た美しい女神、登場。

女神 待って。勇者の証はあなたには渡さない！ あーははははっ。

女神、手ぬぐいを奪う。佑樹、女神と戦う。

恵子 出たな、ラスボス佑！ 佑樹君、気をつけんといけんよ、佑は可愛いけえ騙されるけど、

佑 可愛い？

恵子 暗闇からでもどん底からでも這い上がってくる不死身のツクリエーターやけえね。

佑 不死身のツクリエーターって、ばあちゃん！

女神 (激しい反撃をしながら) 人生舐めんな！ その程度でツクリエーターになれるか？

少年、ぶっ飛ぶ。

少年 うわあああ！

恵子 ほら、しっかりしろ！

恵子、突然少年を往復ビンタ。

少年 Kちゃん、味方じゃないの？ (土下座) ごめんなさい、許してください！

恵子 謝って夢諦めるんかね？ 人にけなされてすぐ諦めるようじゃ、本当の夢じゃない。

ほら、私の壁を越えていきんさい。そのために私はここにおるんよ。

佑 ばあちゃん。

少年 はい！

少年、再び挑むが、再び、ぶっ飛ぶ。

恵子 諦めちゃあいけんって言うたやろ。佑は絶対諦めんよ。堂々と私を超えてった。きつとすごいツクリエーターになるからね。だから佑樹君もユーチューバーでそのレベルまで行かんといけん。

佑 ばあちゃん……!!

少年 はい。うわあああああああ!

少年、再び挑む。

佑 うわあああああああ! ばあちゃん!

#10 勇者の誓

同日。薄暮時、公園。木の下の本ベンチでは少年がぼんやりと膝を抱えている。佑はスマホのゲーム画面を見ながら号泣している。

少年、佑と佑の傍に落ちた手ぬぐいに気づき、近づいて手ぬぐいを取る。

佑 (少年から手ぬぐいを取り上げ) ……悔しい。

少年 ……すみません。

佑 謝らないで。

少年 佑の、グーカレー、面白い味でした。

佑 食べたんだ。

(おばあちゃんのカレーを食べたと誤解されたと気づき、慌てて首を横に振り) 真似して自分で作った。

佑 (情けなさに失笑) ……これあげる。勇者の証に相応しいのは佑樹君だから。

佑、少年に手ぬぐいを差し出す。

少年 (首を振りながら) 価値が出るから。貰えない。

佑 価値? (空を見て) ……ばあちゃん。(少年に) ばあちゃんのを壁を乗り越えたら取り戻しに行くから。

佑、少年に手ぬぐいを渡す。

少年 ……はい。

少年、手ぬぐいを見つめて、握りしめる。

少年 僕も負けない。

佑 私も負けない。

少年、佑の勢いに驚く。

佑 ええ加減、ばあちゃんに似て、負けず嫌いやけえね。

少年 (空を見て) Kちゃん。

佑 ばあちゃんが遺したツクリエイターの卵……だもんね。

少年 うん、ツ、クリエイター。

佑 頑張ろう。

少年 うん。……じゃあ。

少年、去り際に大きく手を振る。佑、笑いながら大きく手を振り返す。

佑 ばいばい。

佑、笑いながら佑樹の背中を見送り、空を見上げる。

佑 (夕焼け空に祖母が見えるかのように) ばあちゃん。

佑、空に向かって頷くと、思わずカレーの歌が口を衝いて出て来る。

佑は、恵子がそっと背を抱いてくれてくれるような気配を感じて、振り返る。

幕